

コロナ禍における学校教育現場との連携

保健体育講座・糸岡 夕里

1. 「小学校サブコース演習」の概要

「小学校サブコース演習」の授業は、初等教育コース小学校サブコースの学生で、教授日野克博先生および筆者を卒業研究担当教員として選択した3回生（9名）を対象として開講した授業科目である。

授業の前半は、附属小学校での教育実習において課題となった体育授業の教材における理解を深めるため、教材の実践とその分析について取り組んだ。授業で身に付けて欲しいねらい（ここでは技能面に限定）を明確にし、そのねらいがどの程度身に付いたのかを、どのように分析（評価）するのかについて理解を深めることで、教材研究（授業研究）の基礎となる力を育むことを目的とした。

授業の後半は、例年、南予にある小規模のA小学校へ出向き体育授業の実践を行っており、そのための準備をしていたが、今年度はコロナ禍で小学校を訪問することが難しい状況であったことから、小学校と大学をオンラインでつなぎ、小学生と大学生との交流イベントを実施し、教室でもできるような運動を紹介することとし、そのための準備をした。

【授業の目的】

本授業の目的は、卒業研究に必要とされる各専門分野の知識や技能等に関わる基礎的な事項について学ぶことである。

【授業の到達目標】

- (1) 卒業研究に向けて、関心のある領域・分野に関する予備的・基礎的な知識を修得し、説明することができる
- (2) 卒業研究に向けて、関心のある領域・分野に関する予備的・基礎的な技能を修得し、実践することができる
- (3) 主体的に学習に取り組むことができる

2. 「小学校サブコース演習」の授業内容

ここでは、主に後半のA小学校との交流イベントについて報告する。

A小学校の体育授業は複式学級で開講されているため、低・中・高学年の担当を3名ずつ決め、1時間（45分）のイベントを計画し実践することとした。

12月から各担当学年に分かれイベント内容を検討した。冬休み以降は、遠隔授業となったことから、担当学年別にZoomで準備状況等の確認を行った。

1月に入り、A小学校教諭と大学教員とでネット環境、音響の確認、映像の確認等、Zoom伝での事前打ち合わせを計4回実施した。またネット環境を確認するため、実際のイベントを開催する同曜日、同時時間帯にて、高学年を対象としたリハーサルを実施した。事前打ち合わせを通して、A小学校の体育主任の教員1名にイベントの内容を説明し、サポートして頂きたい内容等を確認したり、用具等を事前に小学校へ送付することで、イベント当日のスムーズな運営に努めた。

3. 授業評価

以下は、学生の省察コメントの一部を抜粋した。学生の記述にもあるように、今後はこのような取組がいつ求められてもいいように、教員養成段階での経験が重要となる。今後も教育現場との連携を図りながら、授業改善に努めていきたい。

・コロナが収束した後も他の学校との交流会などで使えると思うので、今回の学びを今後に生かしたいです。

・リモートで行うことによって様々な障害があり苦労することもたくさんあったが、結果としては私たちが楽しんで交流することができ、画面を通じて見た限りでは子どもたちも楽しんでくれているように見えた。